

## 2011 年度事業概要

### 1. 市民への情報提供・相談事業

#### (1) 情報サービス関連

##### ①機器による情報提供 (予算=各項目内訳のとおり)

インターネットや海外の TV 番組など、国際交流に役立つ情報が手軽に楽しめる。

ーユニブースで視聴可能なプログラムー

<1 階 交流ロビー PC2 台 操作はキーボードで対応>

(予算=⑨情報機器及びメッセージボックスの有料サービスに含む)

使用料：⑨情報機器及びメッセージボックスの有料サービスのとおり

##### a. インターネット (ホームページ閲覧やフリーメールの利用が可能)

一般来館者が実費負担でインターネットを利用できるサービス。これにより世界各国の最新情報の収集が可能。

ブラウザは 10 言語での対応が可能。

##### b. パソコン

ワード、エクセルなどのソフト (10 言語対応) の利用が可能。インターネットとの併用も可能。

##### c. メッセージボード (無料)

個人間で国際交流や生活に役立つ情報を交換できるコーナー。協会ホームページ上にも設置しているため、外部からもアクセス可能。

##### d. 協会ホームページ (無料)

<1 階 交流ロビー TV5 台> (予算=1,112 千円)

##### a. CS 放送

##### ア. 「BBC ワールドニュース」

英国の 24 時間ニュースチャンネルを放映。

##### イ. 「CCTV 大富」

中国最大のテレビ局「中国中央電視台」の番組を放映。

##### ウ. 「KN テレビジョン」

韓国の今を紹介する番組を放映。

ー大型プロジェクター等で可能なプログラムー

##### b. 大型プロジェクター

協会事業案内や概要を紹介。イベント時等にビデオの放映も可能。

##### c. ロビープラズマディスプレイ

交流ロビーに設置しているプラズマディスプレイにより、BBC ワールドニュースや CCTV (中国語)、KNTV (韓国・朝鮮語) の CS 放送を放映。

②情報サービスコーナーの運営（予算＝159 千円）

外国籍市民が京都で生活していく上での不便・不満を解消して、より快適な生活を実現するための情報提供。その他、外国人観光客・旅行者への観光・旅行案内、一般市民から寄せられる外国事情・留学等についての各種情報提供も実施。電話・e-mail で対応。

職員と協会ボランティア「市民生活アドバイザー」（後述）による対応。

③メッセージコーナー（予算＝情報サービスコーナーの予算に含む）

国際的なイベントや展覧会の案内をはじめ、国際交流の推進に役立つ各種情報及び外国籍市民の日常生活に必要な情報等を随時掲示。

協会実施の事業情報提供コーナーと共に、メッセージボードを設置し、個人レベルでの文化交流や情報交換の場として運用（A5 版専用紙での掲示）。メッセージボックスは有料（1 ヶ月 2,000 円と 3,000 円 最長 12 ヶ月）で貸し出し。

④インターネットによる情報受発信事業（予算＝1,442 千円）

（日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語、スペイン語）

インターネット上の当協会ホームページより協会事業の案内や実施報告、会館紹介及び国際交流に関する各種情報等を発信。多言語ページはブログ形式で、外国人自らによる情報発信が可能であり、情報の多言語化や外国人コミュニティのネットワーク化を図る。また、トップページのバナー広告による収入源としても重視。イベントの参加受付及び登録者へ最新事業案内を送るメールマガジンを発行し、より即時性を持ち、かつ広範囲にわたる情報の提供・受信を行う。

⑤HOUSE navi（外国人のための物件検索サイト）の運営（後述）

（予算＝外国人のための住宅支援事業に含む）

外国籍市民向け賃貸住宅不足の解消に向け、ホームページで物件情報を提供。日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語、スペイン語での利用が可能。

⑥くらしと文化の情報誌『LIFE IN KYOTO』の発行（予算＝839 千円）

協会ボランティアの取材・編集・翻訳により、外国籍市民が関心を持つ情報・読み物を掲載した情報誌『LIFE IN KYOTO』を隔月で各号英語 1,000 部、日本語 1,000 部発行。ホームページ上では英語、日本語に加え、中国語、スペイン語でも公開。留学生寮や大学等を中心に約 50 ヶ所で配布。

また、企業等の広告を募集。（1 枠 31 ミリ×95 ミリ、料金 1 万円/号）

- ⑦『京都市生活ガイド』の配布及び改訂版の発行（予算＝1,106千円）  
 （英語版/中国語版/韓国・朝鮮語版/スペイン語版・各日本語併記。隔年発行）  
 初めて京都で生活する外国人の方々が、安心して有意義に暮らせるように、医療、行政、災害、コミュニケーション、便利な情報等から困ったときの相談窓口まで、図版や地図や写真入りでわかりやすく説明。巻末には各種施設・外国語での診療可能な病院等を掲載し、京都市国際交流会館で配布。当協会ホームページからの閲覧も可能。
- ⑧『京都市生活地図（GUIDE TO KYOTO）』の販売（予算＝635千円）  
 生活上必要なさまざまな施設を日英併記で掲載した地図。  
 会館で外国籍市民や旅行者、一般を対象に販売。一部400円。3,000部/隔年発行。企業などの協賛広告を積極的に募集、掲載。（10枠掲載。1枠28.25ミリ×86ミリ、料金4万円/3,000部）
- ⑨情報機器及びメッセージボックスの有料サービス（予算＝1,163千円）
- |                |      |                                                 |
|----------------|------|-------------------------------------------------|
| a.インターネット      | 使用料： | 200円/30分                                        |
| b.パソコン         | 使用料： | 200円/30分                                        |
| (ワープロ機能・多言語対応) |      |                                                 |
| c.ファックス        | 使用料： | 100円+通話料                                        |
| d.コピー機         | 使用料： | 白黒 10円/1枚<br>カラー(B4まで) 50円/1枚<br>カラー(A3) 80円/1枚 |
| e.メッセージボックスの貸出 | 使用料： | 2,000円・3,000円/1ヵ月<br>最長12ヵ月（再掲）                 |

(2) 図書・資料室の運営（予算＝4,263千円）

より多くの市民の方々が利用しやすくなるように、既存の公共図書館の運営内容やインターネット時代の流れを反映させ、「図書・資料室」の独自性を持たせて運営。そのために資料等を調べやすく整備し、「特定の分野を調べるなら京都市国際交流会館へ」のイメージをつくる。2011年度は国際理解教育と外国人の生活にかかわる分野を重視して蔵書を収集。

①国内外の新聞・雑誌の整備

国内外の情報を提供するために、新聞・雑誌を閲覧に供する。

②図書整備

a.日本人対象「海外に出てゆくため」

- |                                |                 |
|--------------------------------|-----------------|
| ア.留学                           | イ.海外旅行          |
| ウ.海外生活（ワーキングホリディ・ロングステイ・移民・転勤） |                 |
| エ.ボランティア（国内・海外）                | オ.ホームステイ受入時の参考書 |
| カ.日本・京都を外国人に紹介する参考書            |                 |
| キ.語学学習参考書                      | ク.外国人雇用関係       |
| ケ.言語教授法の入門図書                   | コ.国際就職（海外・国内）   |
| サ.国際理解・共生                      |                 |

b.外国人対象「日本での生活に役立てる」

- ア.母国の新聞・雑誌
- イ.日本語の勉強の本
- ウ.日本の大学入学に役立つ資料
- エ.旅行書（国内・海外）
- オ.日本での生活に役に立つ本（法律、ビザ、医療、その他）
- カ.日本・京都紹介の本

③学習コーナー

外国籍市民のための日本語学習教材や、留学希望者のための TOEFL 模擬テストなどの教材が DVD、CD、テープで利用可能。

④図書・資料室ビデオライブラリー

内外文化/自然/観光/生活/日本語学習/一部の大学紹介等のビデオ（300本）及び DVD が視聴可能。持ち込みソフトの使用も可能。デッキは PAL/SECAM/NTSC 方式に対応。

⑤ロングステイセミナー（予算＝70千円）

中高年層等で近年増加傾向にある海外での長期滞在を希望する市民を対象とし、海外での「生活」に役立ててもらえる情報を提供し、相談に応じるセミナー。図書・資料室の蔵書も活用。2004年度より「ロングステイ財団」の協力のもとに開始、継続して毎年開催を市民に定着させる。

⑥ほっこり BOOK カフェ（予算＝39千円）

多文化共生の考えを理解するため、京都で様々な活動を行う外国人や、外国にゆかりをもつ人をゲストスピーカーに迎え、多様なものの見方や考え方の存在に気付くことを目的とする。

過去のテーマ：あなたにとって家族とは？、異文化な夫&妻・彼氏&彼女、いつから大人になった？（国による育ち方の違い）、京都の水・世界の水など。

年3回程度、図書月末閉室日に開催。無料。

(3) 相談関連

①外国人のための生活相談

（予算＝情報サービスコーナーの運営に含む）

外国籍市民の日常生活上の疑問や困りごとをはじめ、情報サービスコーナーにおいて情報提供の一環として各種相談に対応。職員と協会ボランティア「市民生活アドバイザー」（後述）、外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業相談員（後述）による対応。また、子育てなどの相談をはじめ、多岐にわたる相談ニーズに応えるため、他の専門相談機関と連携して対応できるよう検討。

②外国人のための法律相談（予算＝898 千円）

法律の専門家による判断を必要とする相談に対処するため、京都弁護士会の協力のもと、個別相談をおこなう。外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業相談員（後述）育成のため、相談員が同席。原則として毎月第1・3土曜日に実施。

③行政書士による出入国管理手続き相談（予算＝400 千円）

出入国管理に関する具体的な手続きについて、京都入管業務行政書士協議会の協力のもと、個別相談を行う。外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業相談員（後述）育成のため、相談員が同席。原則として毎月第1・3土曜日に実施。

④外国人のためのカウンセリング・デイ（予算＝456 千円）

外国籍市民が日本での暮らしの中で抱える諸問題のうち、法律、出入国管理、税金、社会保険・年金・労働問題、メンタルヘルスなど専門家による判断を必要とする相談に対応するため、各相談機関との連携強化を図り、各専門家を相談員として招き相談会を実施。

年4回開催。相談の場に同席し、サポートを行っているボランティア通訳のための勉強会の実施や、頻出単語集の作成にも取り組み、相談事例に活用できるデータベースの整備を実施。

⑤外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業（予算＝3,630 千円）

行政サービスの利用や手続き等について、外国籍市民、区役所・支所、事業所および本庁等から、電話による通訳・相談に対応する事業。通訳者は、一定の通訳能力および行政等に関する知識を有するものとし、ローテーションにより対応する。通訳技術および行政窓口業務等に関する研修を実施。

英語（火曜日・木曜日）、中国語（水曜日・金曜日）、いずれも9時から17時の間実施予定。

また、2009年度より京都市保健福祉局の新生児訪問などに対し、各保健センターの依頼を受けあれば戸別訪問に通訳者を派遣。

## 2. 国際交流団体との連携事業

### (1) 京都国際交流団体情報ネットワーク

(kokoka 国際交流団体ねっと) (予算=102 千円)

京都地域を中心として活動する国際交流団体のデータベースを整備。会館及び協会に関わる団体のネットワークとして、ホームページで公開する。

新規登録団体も同じくホームページ上で常時募集。

### 3. 共生社会を促進していくための担い手育成事業

#### (1) 国際交流団体活動育成事業 (予算=1,870 千円)

京都における市民レベルの国際交流を促進するため、市内の国際交流団体を対象に、その活動事業を育成するための助成を行う。2011年4月から2012年3月末までに実施される事業が対象。

支援内容 助成額の上限は1団体20万円。予算総額の1/2以内

#### (2) 国際交流活動グループ育成支援事業「COSMOS」 (予算=261 千円)

外国籍市民を対象とした日本文化紹介、外国人による文化紹介等を希望するグループを広い範囲から募集し、その育成と市民レベルの交流を支援。2011年4月から2012年3月までに実施される事業が対象。6ヵ月毎の2期制。申請に基づき支援対象グループを決定。運営・経費等を含め、自立したボランティア活動維持の第一歩となるよう場所の提供(会議室、毎週土曜日)、広報、運営のアドバイス等を行う。

#### (3) ボランティア活動育成事業 (予算=1,695 千円)

外国籍市民をはじめとした、異なる文化背景を持つ人々との相互交流、相互理解の促進を図ることを目的として様々な交流・支援事業を行う。市民がボランティア活動に主体的・自主的に関わることで、京都の国際化や共生社会について考えるきっかけとなり、よりよい地域社会の構築につながるなどの考えから、ボランティア活動の機会や人材の育成に対するサポートを行う。

##### ①各ボランティア活動

###### a.ホームステイ

短期ホームステイの受け入れ。日本家庭の日常生活や日本文化に関心のある外国人を一定期間家庭に受け入れ、家族の一員として共に生活する中で相互理解と友好を深める。外部団体からの依頼に基づき受け入れを行う。

###### b.ホームビジット

京都市を訪れる外国人旅行者を対象とした家庭訪問プログラムで、日本家庭の日常生活や日本文化に関心のある外国人を受入れ、家庭でできる日本・京都紹介を通じて相互理解と友好を深める。

###### c.留学生交流ファミリー

京都に住む留学生の日本滞在期間中の相談相手として精神的な支えとなるなど、普段の生活の中で相互の理解と交流を深める。交流会も実施。

###### d.くらしと文化の情報誌『LIFE IN KYOTO』の取材・編集・翻訳(再掲)

外国籍市民向け情報誌『LIFE IN KYOTO』の取材・編集・翻訳。

###### e.市民生活アドバイザー

情報サービスコーナーにおける様々な生活相談に対し、同じ京都で生活する住民としてアドバイスを行う。

f.外国人向け京都紹介ツアー「京都案内倶楽部」

京都を外国人に紹介するための1日ツアーおよびミニツアーの企画・運営。観光地だけではなく京都の魅力を紹介する。年10回程度開催。また外国人観光客を対象に南禅寺スポットガイドを月2回実施。

g.多言語バンク（英語以外）

外部からの交流・支援活動に関する通訳翻訳依頼に基づきバンク登録者に要請。

h.災害時通訳・翻訳ボランティア

外国籍市民を災害弱者にしないために災害時のサポート体制を整える。外国人向け防災訓練や多言語支援センター設置訓練等を実施し、災害時に備える。

i.市立小中学校日本語ボランティア（後述）

京都市教育委員会と伏見青少年活動センターとの連携により実施。

j.多様な文化背景を持つ子ども達の集いの場「子どもクラブ」

多様な文化背景を持つ小学生の集いの場を作り、同様の状況にいる子ども同士の出会い、異文化との出会いの場を提供。

k.子育て支援「子育てステーションホッとチャット」

子育て中の保護者（外国人日本人問わず）の集いの場。日本の子育て、外国の子育て等について参加者が語り合い交流することを目的に行う子育て支援活動。

l. イベント企画運営

国際交流会館オープンデイ等の協会事業にもボランティアの活動の場を広げ、職員と一体となり事業の推進を図る。

m.チューターによる日本語クラス

外国籍市民の日本語習得をすすめるとともに同じ地域に住む住民同士の学びと交流の場になることを目指し、「暮らしに役立つ日本語」の学びの場をチューター（ボランティア）により提供。また、地域における交流につながるようなイベントを企画し、チューターが学習者の地域社会活動参加を支援できるような取り組みも行う。

また、各クラスの円滑な運営をリードし、チューターと協会のパイプ役を担う「コーディネーター」を設置。

（日本語クラスのコンセプト）

ア.生活の場で使う日本語の習得 イ.学習者のニーズをとらえる

ウ.狭義の日本語習得に留まらない エ.出会いと交流の場を提供

オ.学習者とチューター（ボランティア）の対等な関係

②ボランティア活動への支援

ボランティア活動の充実及びボランティアの活動支援を図る。

a.ボランティア募集（年度途中の募集も実施）

b.ボランティア研修の実施

c.ボランティア定期活動、自主事業に対する支援

d.ボランティア間の交流促進

③ボランティアデータベースシステム及びコミュニケーションサイト運営  
2009 年度に完成したボランティアのデータベース及び登録ボランティアが自由に書き込みや情報交換できるコミュニケーションサイトを運営する。

a. データベースシステム

年間延べ登録数が 400 人を超える中、登録から活動依頼に至る各種データ量が膨大になっている。データの整理と情報の一元化を図るとともに、各手続きの簡素化やリソースの効率的な活用をすすめる。

b. コミュニケーションサイト

活動分野別ボランティアコミュニケーションコーナーや活動紹介コーナーを設けボランティア間のコミュニケーションの向上を図る。

また新たに活動されるボランティアに向け各種情報を発信。

④ボランティアセミナー（新規）（予算＝500 千円）

例年実施してきた年間 2～3 回のボランティア入門セミナーを、ボランティア活動識者等外部講師を迎えて拡大実施するに加え、新規活動者の促進が期待できるような特別研修企画案を各ボランティアグループに募りその中から精査して実施。

(4) インターン受け入れ事業（予算＝0 円）

学生が企業・公的機関等において実習・研修的な就業体験を行うインターンシップ制度を導入。実習を通し、協会事業への理解を図り、より実践的な担い手育成につなげる。

(5) 小中学生社会見学受け入れ事業（予算＝125 千円）

小中学生の社会見学授業として、国際交流会館の団体見学を受け入れる。国際交流施設の機能紹介や京都での外国人を取り巻く状況説明、事業概要説明等の後、現場で働くスタッフやボランティア活動の見学や、留学生に出身国との文化の違いや遊び、京都での生活等について教えてもらい、外国人が地域社会で生活する同じ住民であることを理解してもらう。

(6) ボランティアによる日本語教室支援（新規）（予算＝345 千円）

国際交流会館以外で行われる、京都市内におけるボランティアによる日本語教室開設及び運営について支援を行う。

#### 4. 異文化理解・多文化共生社会への促進事業

##### (1) 異文化理解・多文化共生社会を促進するためのフォーラム・セミナー等

- ① 連続フォーラム「チョゴリときもの」 (予算=1,048 千円)  
日本の社会における在日コリアンの歴史や現状に対する理解を深め、時代とともに多様化する考えや意見をきく連続フォーラムを開催。全4回。また、異文化理解・多文化共生社会の構築を目的とし、連続フォーラム「チョゴリときもの」の内容を小冊子にまとめ『アジアの風文庫』として発行。

##### (2) 異文化理解を促進するための交流活動

- ①国際交流会館 (kokoka) オープンデイ (予算=4,236 千円)  
外国籍市民を含む市民が気軽に利用できる場としての京都市国際交流会館と、京都市国際交流協会の様々な取組みを紹介する、市民参加型の催し。各種交流イベント、講演会、世界の食や文化の紹介等を行う。11月実施予定。
- ②子どものための国際理解教育促進事業  
国際理解プログラム「PICNIK」 (予算=888 千円)  
京都市教育委員会、京都市立国際理解・グローバルキッズ研究会、京都市立中学校教育研究会国際理解教育部会及び京都大学国際交流センター、龍谷大学、京都教育大学の研究者らによるワーキンググループを中心に小・中学校への留学生講師派遣システムを運営。教員や児童・生徒、保護者に向けたPRイベント等も実施。  
留学生の派遣登録大学 京都大学 京都教育大学
- ③国際理解教材 貸出 (新規) (予算=378 千円)  
京都市の小中学校における国際理解教育の活性化・充実化を図るため、要望が高い教材について修理・買い足す等して充実する。  
\*マセラティクラブからの寄付400千円の一部金を充てる
- ④京都市国際文化市民交流促進サポート事業 (新規) (予算=400 千円)  
「京都市国際文化市民交流促進サポーター」を派遣し、市内様々な団体の催しで講演や文化の紹介をしていただき、地域での多文化交流の輪を広げる。  
事業の周知を図るため、まずは協会登録ボランティア及び交流会館利用者を介して事業周知及びサポーターを紹介していくためのミニ講座を開催する。将来的に地域において実践していくための前例として開催する。
- ⑤世界の絵本展 (予算=121 千円)  
絵本を実際に手に取ることによって広く異文化に親しむ機会を提供する。図書・資料室所蔵の諸外国の絵本(約1,300冊)を紹介。テーマによって関係団体と連携、絵本の販売等も実施。7~8月開催。

⑥KYOTO・ふれあい講座「はじめてのお茶講座」(予算=775千円)

日本の代表的伝統文化の一つ「茶道」の一端に触れてもらう体験講座。外国籍市民が主な対象。3ヵ月を一期/12回とし、通年で実施予定。また観光客等を対象にデモンストレーション(体験コース)を実施。

デモンストレーション 1回/500円

(受講料/1期分(12回)/円)

	茶道
外国人	6,000
日本人	20,000

⑦やさしい日本語講座(予算=1,071千円)

やさしい日本語講座では、I(入門、原則金曜日、午後・夜間の2回)、II(ひらがな・カタカナをすでにマスターした人が対象。原則金曜日、夜間の1回)の2クラス。

受講料/1期分(12回)/6,000円

⑧館長の語学サロン(予算=12千円)

館長(柴田重徳)自身が講師となり、リラックスした雰囲気での語学サロンを開催(1時間30分/1回、平日午前、全10回、4月:フランス語/10月:英語)。社会活動意欲の盛んなシニア層を対象とし、語学を通して国際交流・国際理解への道をひらくきっかけとしてもらう。

(3) 多文化共生社会へのまちづくり

①医療通訳派遣事業(予算=5,346千円)

「固定型」「派遣型」による医療通訳派遣を実施。派遣先は醍醐の医仁会武田総合病院、京都駅前の康生会武田病院、京都市立病院、京都桂病院の4病院。言語は中国語・英語・韓国・朝鮮語の3言語で実施。また、2008年度より病院による経費負担を開始し、2010年度より病院が通訳派遣費用の5割を負担。

②コリアンサロン「めあり」(予算=347千円)

日本と深い関係を持つ朝鮮半島の歴史や文化の紹介、在日コリアンに対する理解の促進を目指す文化事業。韓国民団京都府本部、朝鮮総聯京都府本部、当協会の3団体が共同で継続的に実施。

a.ハングル塾(入門・初級・中級/有料)

b.京都に残る日本と朝鮮の交流について(歴史講座)

c.朝鮮半島文化(料理等)紹介の講座

③市立小中学校日本語ボランティア（再掲）

（予算＝ボランティア活動育成事業に含む）

京都市教育委員会が実施している「京都市立小・中学校外国人児童・生徒等に対する日本語指導ボランティア派遣事業」について、ボランティアの募集を当協会と伏見青少年活動センターが行う。外国籍市民の子弟を中心とした日本語指導の必要な児童・生徒に対してボランティアが学校に出向いて学校生活、日常生活に必要な日本語指導を行い、子ども達のサポートを図る。研修やミーティングは京都市教育委員会、伏見青少年活動センターと共に開催。

④外国人のための住宅支援事業（予算＝803千円）

多文化共生社会の実現を目指すため、生活基盤の根幹でもある住居の安定的な充足を図り、留学生をはじめ外国籍市民にとって安心して本務に従事できる環境づくりを構築。

a.外国人向け住宅情報の収集と提供

HOUSE navi（再掲）を中心に事業展開。

b.外国人向け住宅の開拓

日本賃貸住宅管理協会と連携し、地域住民と外国籍市民の共生を促進するため、外国人を受け入れる家主や不動産業者の開拓を行う。

・「KYOTO ふれあい住宅フェア」の開催

・「留学生受入指南」等のマニュアルを用いた啓発。

c.京都地域留学生住宅保証機構への参画。

京都地域留学生住宅保証機構（2013年度末解散予定）が実施する「京都地域留学生住宅保証制度」に参画。

⑤外国籍市民行政サービス利用等通訳・相談事業（再掲）

⑥災害時における外国人支援（予算＝140千円）

近畿地区の地域国際化協会が、広域的な災害時に外国人支援協力体制について協定を締結したことに伴い京都地域での日頃からの備えや体制を整える。

a.災害ボランティア登録（再掲）

b.外国籍市民災害時お助けカードの配布。

災害発生時に役立つ情報を掲載した多言語カードの配布。

c. 外国籍市民向け防災訓練や多言語支援センター設置訓練等の実施。

災害ボランティア登録者を中心に災害時に外国籍市民を支援するための日常の取り組みの重要性を学び、外国籍市民が参加する避難訓練や多言語支援センター設置訓練を実施。

d.災害時外国人サポートサイトの運営

災害に関する様々な情報（地震、気象等の最新情報）や、災害情報を携帯に配信するシステムを、やさしい日本語、英語、中国語の多言語で発信するホームページを運営し、災害時の外国籍市民への支援体制を強化。

⑦京都地域外国人コミュニティ基礎調査（新規）（予算＝1,346 千円）

京都地域に存在する外国にルーツを持つ人々のコミュニティの実態を調査し、情報伝達ルートやニーズを探り今後の事業運営に生かすのが目的。調査実施にあたり、日頃より定期的に外国籍市民の支援について話し合う任意団体の集まりである「きょうと外国人支援ネットワーク」（15 団体参加）等との協働事業として位置づけ、テーマに関連するシンポジウム等も実施。

3 年次事業の 1 年目で、2 年目は調査結果の分析及び結果に基づき実施する事業の検討、3 年目は調査結果を基に外国籍市民の自立と社会参画支援事業を実施予定。

## 5. 留学生との協働・留学生への支援・留学生との交流事業

### (1) 留学生への支援・留学生との交流関連

#### ① 京都地域留学生交流推進協議会への参画 (予算=0円)

京都地域における外国からの留学生の受け入れ、地域社会との交流活動の推進を図るための諸方策について協議するために設置された「京都地域留学生交流推進協議会」(京都地域の各大学及び留学生関連の各関係機関が加盟)へ参画し、留学生関係の各事業を協働で推進。

#### ② 京都市外国人留学生国民健康保険料補助事業 (予算=16,000千円)

京都市国民健康保険に加入している私費留学生に対し、大学等と協力して国民健康保険料の一部を補助することで、国民健康保険への加入の促進、留学中の健康不安の解消、日本での生活を側面から支援。

1ヵ月 700円。

#### ② 外国人のための住宅支援事業 (再掲)

#### ③ 学生就職支援事業 (予算=821千円)

京都で学生生活を送った留学生の活躍を期待し、就職活動が3回生の秋から活発化する実情や、企業担当者から直接会社説明を聞くことができる機会の増加を望む留学生の声をふまえて実施。

- a. 「留学生のための就職ガイダンス&ジョブフェア (第8回)」を5月に実施予定。京都地域留学生交流推進協議会の主催事業として実施。
- b. 「就職ガイダンス&ジョブフェア 2012Ⅱ」を12月に実施予定。京都の企業に京都の各大学の留学生を積極的に採用してもらうため、留学生の採用促進に向けての交流や情報提供の機会を、各大学、京都地域留学生交流推進協議会等と連携し、京都市国際交流会館において積極的に展開。

#### ⑤ 外国人のための生活オリエンテーションプログラム (予算=513千円)

来日して間もない外国人(6ヵ月以上滞在予定者)が、京都での生活に円滑に適應できるように早期の段階で生活に関する情報を提供するためのオリエンテーションを実施。長期滞在中発生する可能性のあるトラブルを未然に防止するとともに、会館を知ってもらうことを目的とする。当協会で作成した「留学生のための生活オリエンテーション DVD」(日本語・英語版及び中国語版、韓国・朝鮮語版)を活用。

#### ⑥ 張鳳俊奨学基金奨学金支給事業 (予算=3,062千円)

京都で勉学に励むアジア出身の女子私費留学生の生活を支援するために、故張鳳俊氏の申し出により設立された基金より奨学金を支給。

- a. 月額5万円 年間5名程度

⑦「留学のまち・京都」総合支援・優待プログラム（新規）

（予算＝1,600 千円）

京都の大学及び日本語学校に在籍し、将来それぞれの国と京都とをつなぐ架け橋となる留学生に対し、協会事業を中心に有益な情報を一元化した「留学生お得だねっと」、アルバイトや地域活動及び企業のインターンシップ受入れなどの情報等を登録し、人材の活用ができる「kokoka 留学生ねっと」、「留学生情報リンク集」の3つのコンテンツを提供しているHP「京都 留学生情報サイト」の運営及び下記事業を実施する。

a. 「留学生お得だねっと」

- ・「留学生おこしやす PASS 京都」の発行

京都市の文化施設等の入場を無料とする。

対象施設 元離宮二条城、無鄰庵、京都市美術館、京都市動物園、  
京都国際マンガミュージアム、京都万華鏡ミュージアム、  
京都市青少年科学センター、京都市学校歴史博物館、  
大谷大学博物館、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、  
京都大学総合博物館、立命館大学国際平和ミュージアム、  
梅小路公園朱雀の庭・いのちの森、  
嵐山モンキーパークいわたやま

実施時期 7月・8月、1月・2月（嵐山は4月～3月の間に一度）

- ・イベントへの無料招待

京都市交響楽団定期演奏会（年6回程度）

市民狂言会（年4回程度）

京都創生座（年1回程度）

京都市市立大学音楽学部定期演奏会（年2回程度）

時代祭（10月）

弥栄会館ギオンコーナー

- ・京都市主催 国際学生交流会の開催

市長が留学生を招待して京都の魅力に触れてもらう「国際学生交流会」を実施する。

b. 「kokoka 留学生ねっと（京都市留学生いきいき人材バンク）」

企業でのインターンシップや地域活動など、留学生の就職や社会参加の支援をするためのホームページ。「自らの力を発揮したい留学生の情報」と「仕事や社会活動等において留学生の力を活かしたい企業、学校、地域団体等の情報」の交換ができるサイトを運営する。

⑧子どものための国際理解教育促進事業（再掲）

⑨留学生交流ファミリー（再掲）

## 6. 広報・出版・広告事業

### (1) 広報・出版関係

協会の実施する事業が市民の暮らしになくてはならない事業としての存在を目指し、そして、関係団体との連携を強めるためにも『ホームページ』を中心に『LIFE IN KYOTO』や『アジアの風文庫』、『催し物案内』等を通して、協会事業の情報及び協会が目指すことやその取組み、課題などを積極的に発信。

- ①協会年報『ANNUAL REPORT』の発行（予算＝300千円）  
2010年度版の発行。
- ②インターネットによる情報受発信事業（再掲）
- ③『LIFE IN KYOTO』の発行（再掲）
- ④『京都市生活ガイドブック』の配布及び改訂版の発行（再掲）
- ⑤『京都市生活地図（GUIDE TO KYOTO）』の販売（再掲）
- ⑥『アジアの風文庫』の発行（再掲）

### (1) 広告関係

（予算＝インターネットによる情報受発信事業、LIFE IN KYOTO に含む）  
協会の収入強化のために、協会発行の印刷物やホームページへの広告掲載をすすめる。

ホームページへの広告掲載 1 枠（日本語版） 15,000 円／月  
1 枠（英語版） 10,000 円／月  
1 枠（中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語版）  
各 5,000 円／月

『LIFE IN KYOTO』への広告掲載

1 枠 10,000 円／1 号（隔月発行）

『京都市生活地図（GUIDE TO KYOTO）』への広告掲載

1 枠 40,000 円／3,000 部（隔年発行）

## 7. 姉妹都市コーナー・展示室の運営及び姉妹都市関連

### (1) 姉妹都市コーナー・展示室の運営 (予算=67千円)

京都市の各姉妹都市のパネル・工芸品等を展示する常設展を実施するとともに、年間約25回程度の企画展を国際交流が目的の展示について無料で開放。外国籍市民、特に留学生による作品の発表の場としても積極的に活用。

## 8. 京都市国際交流会館の運営

### (1) 京都市国際交流会館指定管理受託事業 (予算=93,843千円)

①会館の施設管理及び貸出施設の運営。新規利用者及びリピータの獲得に努めるために利用者のニーズに沿ったサービスを提供。

施設の予約状況をホームページで公開。

各貸出施設の情報端末(LAN)を無料で提供。

貸出施設の継続利用者等に月極の有料ロッカーの貸出。

2011年度の収入目標 39,000千円

②京都市国際交流会館の前庭の活用

会館の前庭を活用し利用者増を図るとともに賑わいを作り出す。

a.前庭の円形ステージ等を広く市民に開放。前庭の賑わいを作り出す。

b.前庭にオープンカフェを設置

c.前庭のライトアップ

③団体事務室の入居団体及びレストランとの連携

会館の団体事務室に入居している国際交流基金京都支部や国際教育交換協議会及びレストラン(ルヴェソンヴェール)と連携し、会館の利用者増につなげる事業を実施。

④岡崎地域活性化懇談会への参画

岡崎地域の各施設(京都市美術館、京都市動物園、京都会館、みやこめっせ等)で運営している岡崎地域活性化懇談会で中心的な役割を果たしつつ岡崎地域の活性化を図る。